

アメリカセンダングサ

Bidens frondosa



種名

分類

被子植物双子葉合弁花類キク科

俗称

セイタカタウコギ

生活型

1年草

分布

北アメリカ原産の帰化植物で、大正時代に日本に入ったといわれる。現在では、本州から九州にかけて広く分布する。

形態

茎：茎は根ぎわで分蘖して四方に伸びる。節から根を出し、上部は斜め上に伸びて高さ 20～50 cm になる。茎は細長く、節にも葉鞘にも毛がない。茎や葉鞘はふつつ赤紫色を帯びる。

葉：葉は狭い披針形で互生し、長さ6～9cm、幅3～4mm、無毛で先はしだいに尖る。柔らかない白色の毛があり、下部に平たい葉鞘を持つ。

花:花期は8～9月、花茎の先に4～10本に分かれた枝を広げて穂をつける。枝(穂軸)の長さは5～7.5 cmで、多数の小穂を2列につける。小穂は1小花からなり、卵状楕円形で長さ2mm、緑色または紫色を帯び、毛がある。

果実: 穎果は長楕円形で先が丸く、腹面は扁平。乳白色で鈍い光沢がある。

根:強いひげ根を張って生育するため、踏みつけに強い。

類似種

メヒシバはアキメヒシバによく似るが、茎や葉鞘が赤紫色にならないこと、葉の縁や葉鞘に長い毛があること、花穂の形状が異なることなどで区別される。アキメヒシバよりも大型になる。

コメヒシバは花穂の小穂がメヒシバと同様に披針形で、アキメヒシバの卵状楕円形とは異なる。他のメヒシバ類に比べ、やや光の弱いところに生育する。(穂の形状についてはオヒシバの項を参照)

生息場所

河川敷では人の集まる高水敷や堤防上に生育する。そのほか、陽当たりのよい野原や道端、荒れ地、空き地、畑などにも多く生育する。夏の畑地、樹園地、桑畑などの代表的な強害草の1つである。オヒシパーアキメシバ群集の構成種である。

繁殖

花期は8～10月。結実して穎果ができる。繁殖は種子で行なわれ、4月頃幼苗が出現する。

他生物との関係

ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、ウスイロコノマチョウなどの蝶類の食草となる。

配慮のポイント

高水敷のグランドカバーとして利用できる。

引用文献:『川の生物図典 植物』を改変